

中国人民解放軍の現代化の到達点と新たな方向性 ——ハイテク化による情報化局地戦争での優位性確保の試み——

防衛研究所 主任研究官 下平 拓哉*

要 旨

中国人民解放軍は、世界一流の軍隊を目指し、現代化を進めている。また2015年末から、中国人民解放軍の改革は着実に進められている。そして、積極的防御戦略の下、陸軍は全域機動型、海軍は近海防御と遠海護衛の融合、空軍は攻防兼備型、第二砲兵は情報化への移行をそれぞれ打ち出している。中国の軍事戦略における主な特徴は、宇宙空間とサイバー空間の重視と情報化である。中国人民解放軍の問題点として、実戦経験がないこと、訓練不足等が挙げられているが、軍事科学技術力は急速な発展を遂げている。中国人民解放軍は、局地において、統合作戦を戦い、戦争に勝利するために、宇宙空間及びサイバー空間において軍民融合により優位性を確保し、主導性をとるという新たな戦い方を模索している。

キーワード：世界一流の軍隊、積極防御、情報化局地戦争、戦略支援部隊、軍民融合

1. はじめに

中国人民解放軍は、世界一流の軍隊を目指し、現代化を進めている。2017年10月18日の中国共産党第19回全国代表大会の政治報告において、習近平総書記は、中国の夢、強軍の夢の実現を念頭においた新時代に入ったことを宣言した。「あくまでも中国の特色ある軍隊強化の道を歩み、国防・軍隊の現代化を全面的に推し進める。」とし、2020年までに機械化実現・情報化進展・戦略能力大幅向上を成し遂げ、2035年までに国防・軍隊の現代化を基本的にも実現し、今世紀中葉までに人民軍隊を世界一流の軍隊にするという目標を掲げた¹⁾。

実際、2015年末から中国人民解放軍の改革が進められている。7つの軍区を5つの戦区に改編した他、2015年12月31日には、陸軍指導機構の発足、第二砲兵のロケット軍への格上げとともに、戦略支援部隊の新設を発表した。2016年1月11日には、四総部体制を7つの部庁、3つの委員会、5つの直属部門の合計15の部門へ改編した新たな中央軍事委員会体制を発表し、党による軍の集中的かつ統一的な統制の強化が図られている。習近平総書記は、中国人民解放軍とともに、中国を強くするためには、党の指導強化が不可欠とし、中国人民解放軍に絶対的な忠誠を求めている²⁾。

本稿においては、中国人民解放軍はどのような方向へ進んでいくのか、その新たな戦い方の方向性を明らかにする。まず、中国の軍事戦略の特徴を整理した上で、中国人民解放軍の現代化の状況、つまり陸軍、海軍、空軍、ロケット軍及び戦略支援部隊の特徴的な能力について分析する。次に、中国人民解放軍の問題点について考察し、軍事科学技術力の方向性を踏まえ、最後に、中国人民解放軍の新たな戦い方について明らかにする。

2. 中国の軍事戦略

中国人民解放軍の戦略は、2015年5月26日に発表された中国の国防白書『中国の軍事戦略』において明らかにされている。中国共産党の軍事戦略思想の基本点は「新たな情勢下における積極的防御の軍事戦略」である。中国は、現下の安全保障情勢を「戦略的好機」と捉え、陸軍は全域機動型、海軍は近海防御と遠海護衛の融合、空軍は攻防兼備型、第二砲兵は情報化への移行をそれぞれ打ち出している³⁾。

中国人民解放軍の今後の方向性を判断する上で、中国の軍事戦略における特徴的なこととして次の2点を指摘することができる。

第1は、宇宙空間とサイバー空間の重視である。『中国の軍事戦略』においては、4つの重大安全分野として、「海洋」「宇宙」「サイバースペース」「原子力」が掲げられており、宇宙空間とサイバー空間が戦略的競争の制高

* 防衛省防衛研究所主任研究官

点 (commanding height) であると表現している⁴⁾。制高点とは、展望がきく要害の高地であり、常に敵よりも高い位置を占めることによって優位に立つことである。また、中国人民解放軍のシンクタンクである軍事科学院軍事戦略研究部が教範として刊行している『戦略学』においても、敵の作戦システムを麻痺させ、指揮システムを妨害するため、宇宙、サイバー、電子戦を戦略兵器として使用することの重要性が言及されている⁵⁾。

第2は、情報化である。『中国の軍事戦略』は、「軍事闘争への備え」の重点を「情報化局地戦争の勝利」におくと明確に指摘している⁶⁾。この点について、軍事闘争への備えの重点を情報化局地戦争においたことについて、軍事科学院国防政策研究センター研究員の闫文虎は、「宇宙とサイバー空間が各国の戦略競争の新たな要害の高地となり、情報制御の主導権を握ることが戦争の総合制御権を握る上で鍵となり、戦争の勝利メカニズムに変化が生じ、戦争形態は情報化戦争への変化を加速している。」⁷⁾と解説している。軍事闘争へ準備の重点は、1993年の「ハイテク条件下の局地戦争に勝利すること」、2004年の「情報化条件下の局地戦争に勝利すること」から、「情報化局地戦争において勝利すること」へと変化している。

新アメリカ財団 (New American Foundation) フェローのコステロ (John Costello) によれば、抑止として、政治的、経済的に、民間の目標に対して宇宙、サイバー攻撃を仕掛けることも情報化戦争の一環であり、そこでは戦略支援部隊が主たる役割を果たすと分析している⁸⁾。今後、宇宙とサイバーを所掌し、情報化戦争を担う戦略支援部隊の役割がますます高まる。

3. 中国人民解放軍の能力

2018年8月16日、米国防総省は、『中国の軍事力に関する年次報告』を発表し、中国が、戦争に勝利するために、中国人民解放軍の改革を進めていることに強い警戒感を示している⁹⁾。主として同報告を基に、中国人民解放軍陸軍、海軍、空軍、ロケット軍、戦略支援部隊の特徴的な能力について分析する。

3-1 陸軍

2017年4月、中国人民解放軍は歴史上最も大規模な機構改革を始めた。それが、中国人民解放軍陸軍の中心的な作戦単位を、師団・連隊から旅団・大隊へと移行することである。7大軍区から5大戦区への改編により、

5つの集団軍が廃止され、13の集団軍となった¹⁰⁾。5つの集団軍の廃止は、中国人民解放軍陸軍の現代化を進めるために、部隊の再編を行い、ソ連時代の旧システムの更新を図るものである。しかしながら、現代戦で通用する兵器は、いまだに半分ほどしかないと言われている¹¹⁾。また、元米陸軍情報将校で中国の軍事に詳しいブラスコ (Dennis J. Blasko) が、戦略的抑止のためには、有能な中国人民解放軍陸軍が必要であると主張しているとおり¹²⁾、今後、実際的な能力を重視した部隊再編と実際的な訓練の実施が加速されることが予想される。

2017年に入り、「跨越 (STRIDE) 2017」及び「火力 (FIREPOWER) 2017」という旅団レベルの実際的な訓練が実施されている。「跨越 2017」は、中国人民解放軍陸軍と中国人民解放軍空軍の協同による空対地攻撃に、「火力 2017」は、防空と火砲に焦点を当てた訓練であり、訓練規模は大きなものでなかったが、専門的な敵部隊を配することによって、より実際的なかつ統合的なものとなっている¹³⁾。

3-2 海軍

中国人民解放軍海軍は、300隻以上の艦艇を有するアジア最大の海軍である。特に、潜水艦、水上艦艇の急速な現代化が顕著である。

潜水艦は、弾道ミサイル搭載原子力潜水艦 (SSBN) 4隻、攻撃型原子力潜水艦 (SSN) 5隻、ディーゼル推進攻撃潜水艦 47隻を保有しており、2020年までに計69～78隻に増強予定である。2020年代初めには、潜水艦発射弾道ミサイル JL-3 SLBM を搭載する次世代 096型 SSBN の建造が開始される。また、2020年代半ばまでには、新たな 093B型 (高級改) SSN を建造する。093B型は、対水上戦能力だけでなく対地攻撃も付与される。中国人民解放軍海軍は、対艦巡航ミサイル (ASCM) を重視し、先進的な ASCM を備えた潜水艦を就役させ続けるとともに、ロシアから12隻のキロ級潜水艦を購入した際も、その内8隻が ASCM 発射可能なものにしていく¹⁴⁾。

水上艦艇は、2017年に 052D型 (ルーヤンⅢ級) 駆逐艦3隻が就役し、現在7隻を運用中であり、今後、少なくともあと6隻を増強予定である。また、055型 (レンハイ級) 巡洋艦も建造中である。さらに、054A型 (ジャンカイⅡ級) フリゲートが24隻以上就役し、数隻建造中である。南シナ海や東シナ海の近海戦闘能力を増強するため、056型 (ジャンダオ級) コルベットの急速な建

造を進め、2017年末までに35隻が就役し、さらに60隻以上を建造予定である。そして、近海用として、022型（ホウバイ級）ミサイル艇60隻も運用中である。水上艦艇においても、引き続き対水上戦を重視しており、YJ-83、YJ-62、YJ-18等のASCMを装備している¹⁵⁾。

中国人民解放軍海軍海兵隊（PLANMC）は、2個旅団約10,000人を有し、2020年までに7個旅団30,000人超規模となる予定である。しかしながら、作戦能力は限定的で、主に南シナ海の拠点への強襲揚陸用と防衛用である。また、中国はいくつかの特殊作戦部隊を有しているが、定期的に海上における訓練を実施しているのはPLANMCだけであり、ソマリアの海賊対処活動にも派遣されている。1974年のベトナムと西沙諸島をめぐる戦い、1988年のスプラトリー諸島におけるベトナムとの交戦、そして、1995年にはフィリピンが領有権を主張していたミスター礁を占領したのもPLANMCである¹⁶⁾。

3-3 空軍

中国人民解放軍空軍は、2700機以上の航空機を有するアジア最大、世界第3位の空軍である。約2100機ある作戦機は、現代化を続け、米国との差を急速に縮めつつある。

戦闘機は、第4世代戦闘機約600機を保有し、今後数年の内に大半が第4世代戦闘機となる。また、J-20やFC-31といった第5世代戦闘機の開発も進めている。

爆撃機は、H-6爆撃機の能力向上を図っており、最新のH-6Kは航続距離を延伸し、対地巡航ミサイル（LACM）を6基装備することができ、グアム島に対し長距離スタンドオフ精密攻撃できる能力がある¹⁷⁾。また、新たな爆撃機H-20をまもなく就航させる。H-20は、最新鋭ステルス戦略爆撃機で、核兵器を搭載可能であり、航続距離は少なくとも8500km以上、米軍のステルス爆撃機B-2と酷似している¹⁸⁾。

2017年末には、広東省珠海飛行場から、世界最大の水陸両用飛行艇AG600クンロン（Kunlong）の初飛行を成功させている。50人搭乗可能で、小型ジェット機ボーイング737とほぼ同じ大きさ、海上自衛隊のUS-2に酷似している。約12時間の飛行によって、南シナ海南端まで飛行可能であることを示し、同地域をめぐる作戦において重要な役割を果たすものと見積もられている¹⁹⁾。

その他、H-6Uとウクライナから購入したIL-78マイ

グスを空中給油機として運用し、作戦行動範囲を拡大している。また、KJ-2000メイトリング、KJ-200モス、KJ-500といった空中早期警戒管制機の統合を進め、様々な条件下で作戦行動可能な範囲を拡大している。さらに、無人機について、雲影（Yunying）や翔龍（Xianglong）の開発も進められている²⁰⁾。

3-4 ロケット軍

中国人民解放軍ロケット軍については、第二砲兵から改名され、地上配備型の核及び通常弾頭ミサイルの訓練、装備、運用を担い、戦略的抑止能力の向上を図っている。通常ミサイル戦力としては、2017年7月の中国人民解放軍90周年パレードにおいて、新たな準中距離弾道ミサイル（MRBM）DF-16Gが初めて明らかになったが、精度、準備時間、最終段階運動において高い能力があると発表されている。また、2016年に実戦配備された中距離弾道ミサイル（IRBM）DF-26も登場し、陸上目標に対する核及び通常弾頭による精密攻撃及び西太平洋、インド洋、南シナ海における海上目標に対する通常弾頭攻撃が行えると言われている。

核ミサイル戦力としては、DF-5A、DF-5B、DF-31、DF-31A、DF-4等の大陸間弾道ミサイル（ICBM）を75～100発を保有している。同パレードにおいて、DF-31Aの能力向上型のDF-31AGが発射台付き車両（TEL）に搭載されて登場した。その他、路上移動型や列車移動型DF-41の開発も継続されている²¹⁾。

3-5 戦略支援部隊

戦略支援部隊は、2015年末に新たに設立された組織であり、中国人民解放軍の宇宙、サイバー、電子戦任務を担当している。

宇宙計画は、急速な発展を継続している。2017年に18基の宇宙発射体を打ち上げ、その内16基成功し、通信、航法、情報・監視・偵察（ISR）及び試験／技術衛星を含む31機の宇宙機を軌道に乗せた。

中国人民解放軍は、サイバー空間を、国家安全保障及び戦略的競争の舞台における新たな領域として重要視している²²⁾。そして、中国には、それぞれの線引きは難しいけれども、政府関連組織、中国人民解放軍関連組織、非政府関連組織、いわゆるサイバー民兵の3つのサイバー部隊が存在すると言われている²³⁾。

ランド研究所（RAND Cooperation）が戦略支援部隊について詳細な分析をしており、戦略支援部隊は情報化

局地戦争を戦うために死活的に重要な組織であると評価している²⁴⁾。

4. 中国人民解放軍の問題点

グローバル・ファイヤー・パワーによれば、2018年の軍事力ランキングにおいて中国は、米国、ロシアに次いで第3位となっている²⁵⁾。そして、中国の軍事力の現代化は、予想以上に進展していると評価されている²⁶⁾。中国人民解放軍は、軍事科学技術力を発展させて、世界一流の軍隊を目指しているが、様々な問題点も指摘されている。

中国人民解放軍の問題点の第1は、「中国軍は張り子の虎だ。」²⁷⁾という評価である。汚職、隣国関係、インフレ、人口問題等、どれ1つをとっても問題解決は容易ではない、非常に大きな問題を抱えているからである。新型艦艇や航空機等、新型の箱物を急ごしらえにいくら作っても、実際には使えるようになるためには、人の教育訓練、装備の整備等に多くの時間を要する。

第2に、実戦経験がないこと。1979年から実戦経験がないため、装備そのもの及びその運用に至っても実際は欠陥だらけとの指摘がある。しかしながら、中国人民解放軍は、この問題点を認識し、これを克服するため、特にロシアとの共同訓練に積極的になってきている²⁸⁾。

第3に、訓練不足である。ランド研究所のチェイス(Michael S. Chase)らによると、中国人民解放軍の弱点は、訓練、統合、行政、人的資本、軍の発展、後方にあると分析しており²⁹⁾、その第1に訓練を挙げている。とは言え、中国人民解放軍は、2009年以降、統合訓練を積極的に実施するようになってきている³⁰⁾。

中国人民解放軍は、様々な問題点を抱えつつも、これらを確実に認識し、克服しつつあることは間違いない。習近平国家主席は、中国人民解放軍の改革のみならず、「一帯一路」政策の下、ロシアを始めとした他の国々との協力関係を深め、訓練機会を作為し、より実戦的な中国人民解放軍を作りつつある。

5. 軍事科学技術力の方向性

中国人民解放軍の軍事科学技術力は、急速に発展している。新アメリカ安全保障センター(Center for a New American Security: CNAS)のカニア(Elsa B. Kania)は、「中国は科学技術分野において、急速に超大国となっており、米国の優位性はすでにない。」と衝撃的な評価を下した。注目すべきものとして、①電磁レールガン、

②ハイテク艦艇、③戦闘機、④極超音速滑空体、⑤AIの5点を掲げている³¹⁾。また、米国のビジネスニュースサイト『クオーツ(Quartz)』の中国人民解放軍の科学技術力の評価は、注目すべきものとして、①空母、②電磁レールガン、③極超音速滑空体、④深海偵察機、⑤ドローン群、⑥進化外骨格の6点を掲げている³²⁾。これらに共通するもの及び日本の安全保障上、看過できない軍事科学技術力について分析し、その方向性について考察する。

第1に、電磁レールガンである。2018年2月、『サウスチャイナモーニングポスト』紙に、湖北省武昌造船所において、玉亭I型(072-II級)大型揚陸艦「海洋山(Haiyang Shan)」に電磁レールガンが搭載された写真付き記事が掲載された。米国が開発中の電磁レールガンと同様、発射速度マッハ7、射程100マイル以上の能力があり、一方の米国はまだ洋上における試験を実施していないため、大きな話題となった³³⁾。中国人民解放軍海軍は、2025年までに駆逐艦に電磁レールガンを装備すると見積もられている³⁴⁾。

第2に、ハイテク艦艇である。その象徴が055型(レンハイ級)巡洋艦である。2017年6月、1番艦「南昌(Nanchang)」が進水し、2018年8月、海上試験を開始した。上海の江南長興造船所で建造され、中国最大規模の基準排水量12,000トンであり、ステルス性を有している。2019年までには就役の予定で、少なくともあと3隻が建造中と言われ、今後、空母打撃部隊の中核を担うことが予想されている³⁵⁾。

また、2017年4月には、遼寧省大連において、国産第1号で中国にとって2隻目の001A型空母「山東(Shandong)」が進水し、2018年5月に海上試験を開始した。排水量65,000トンであり、航空機については、中国初の空母「遼寧(Liaoning)」がJ-15を24機搭載可能であったのに対し、35機搭載可能である。3隻目となる002型空母も建造中であり、排水量80,000トン、航空機40機搭載、より先進的なカタパルト発艦方式となり、原子力推進となる可能性もある。将来的には、4ないし5つの空母打撃部隊を構成すると見積もられている³⁶⁾。

第3に、極超音速滑空体(Hypersonic Glide Vehicle: HGV)である。2017年11月、内モンゴル自治区・酒泉衛星発射センターにおいて、準中距離弾道ミサイル(MRBM)DF-17の発射実験が実施された。DF-17の弾頭にHGVを搭載し、高度60kmから発射され、11分間、

1400kmを飛行した。DF-17は、射程1,800～2,500kmであり、核ないし通常弾頭を搭載可能で、HGVの代わりに、空母や航空基地を攻撃するための終末誘導機動弾頭（Maneuverable Reentry Vehicle: MaRV）も搭載できる³⁷⁾。

中国人民解放軍のこれらの軍事科学技術力の発展において、中国は軍民融合をもって当たっていることに留意する必要がある。中国は、強い軍隊を作るために、現在は国営企業が支配的である防衛産業において、民間企業の積極的な取り込みが進められている³⁸⁾。特に、サイバーに関しては軍民融合が顕著であり、国営企業の中国電子情報産業集団公司（China Electronics Corporation: CEC）や中国電子科技集団公司（China Electronics Technology Group Corporation: CETC）とともに、その2大子会社であるチャイナ・ソフト（ChinaSoft）とチャイナ・サイバーセキュリティ（China Cybersecurity）及び400社以上の民間企業が関係している³⁹⁾。

6. 新たな戦い方

中国人民解放軍の現代化は、様々な問題を抱えつつも、習近平国家主席の強いリーダーシップの下、確実な進展を見せている。特に、軍民融合による軍事科学技術力の向上は、国際社会における米国支配にとって代わりとうする勢いである。発展を続ける現在の中国人民解放軍を象徴するキーワードは、改革、現代化、そして優位性である⁴⁰⁾。

米陸軍情報将校のブラスコによれば、2049年までに軍の現代化を完成させるため、中国人民解放軍は改革を進め、特に海、空、宇宙における統合作戦能力の向上が顕著と分析している⁴¹⁾。そして、CNASのカニアによれば、中国人民解放軍は、AIを駆使したサイバー戦、電子戦、ドローンの群れを使った戦い方によって、米国の優位性を揺るがすと分析している⁴²⁾。つまり、中国人民解放軍の改革とは、現代化を進め、向上した統合作戦力によって優位性を確保し、主導性をとることである。

米連邦議会調査局報告によれば、中国が現在採用している積極的防御戦略の基本原則とは、中国は攻撃されるまでは攻撃しないという戦略的な立場であるが、中国が戦略レベルで攻撃を受けたと判断された場合は、作戦レベルにおける主導権をとることを意味する⁴³⁾。そして、積極的防御戦略において、主導性を確保することを最重要視している。そのためには、敵の情報ネットワークを攻撃する必要がある、したがって、現代戦においてはサイ

バー空間と宇宙空間における優位性を確保する必要があると認識している⁴⁴⁾。そして、中国人民解放軍は、サイバー戦は、平時と戦時を区別することなく活用すべきもので、電磁スペクトラムのあらゆる領域において行うと考えている⁴⁵⁾。また、中国は、敵の軍事衛星ネットワークを破壊するために、攻撃のみならず電子戦を含んだ様々な作戦を行うであろう⁴⁶⁾。

中国人民解放軍が、統合作戦能力向上のために、実戦的な訓練を重ね、宇宙空間及びサイバー空間に重心をおいているのは確かである。したがって、それらを所掌する戦略支援部隊の設立は画期的なことである。現在の中国人民解放軍は、陸軍、海軍、空軍、ロケット軍、戦略支援部隊が、軍民融合をもって統合作戦力を構成し、情報化局地戦争という新たな戦い方を模索している。その新たな戦い方は、局地において、統合作戦を戦い、戦争に勝利するために、宇宙空間及びサイバー空間において軍民融合により優位性を確保し、主導性をとることである。

7. おわりに

「宇宙、サイバー、電磁波といった新たな分野で競争優位を確立できなければ、これからこの国を守り抜くことはできない。」⁴⁷⁾これは、2018年10月14日、陸上自衛隊朝霞駐屯地で実施された自衛隊記念日観閲式において、自衛隊の最高指揮官である安倍晋三総理大臣が述べた言葉である。

2012年11月15日、中国共産党中央軍事委員会主席に就任以来、習近平主席によって中国人民解放軍は大きく様変わりした。習近平主席が、安倍総理と同様の問題意識をもって、戦略支援部隊を設立したのは、今から3年前の2015年12月31日である。

米連邦議会調査局報告によれば、中国の作戦領域の拡大が顕著である。中国は、1960年代以降、同盟を結ばず、その一方で米国の2国間同盟を批判し、海外基地も作ってこなかった。しかしながら、中国がジブチに新たな基地を設定したことは、これまでのアプローチを変えてきている証左である⁴⁸⁾。

人民戦争を戦った中国人民解放軍は、伝統的な強さの顔とともに、新たな力を備えつつある別の顔を持っていることを知るべきである。

※本論は、すべて筆者の個人的見解であり、筆者の所属組織を代表するものではありません。

- 1) 「習総書記が第19回党大会で報告『新時代に初心忘れずたゆまぬ奮闘を』」『北京週報日本語版』2017年10月19日, http://japanese.china.org.cn/politics/txt/2017-10/19/content_50041259_2.htm/.
- 2) Lily Kuo, "Xi Jinping calls for 'absolute loyalty' from Chinese army," *The Guardian*, August 20, 2018, <https://www.theguardian.com/world/2018/aug/20/xi-jinping-calls-for-absolute-loyalty-from-chinese-army/>.
- 3) 国務院新聞弁公室『中国の軍事戦略』2015年5月。
- 4) 同上。
- 5) Chinese Academy of Military Science, *The Science of Military Strategy* [戦略学], 3rd ed., Beijing: Military Science Press, 2013, p. 320.
- 6) 前掲3に同じ。
- 7) 「『中国の軍事戦略』白書, 専門家の解説」人民中国, 2015年5月28日, http://www.peoplechina.com.cn/xinwen/txt/2015-05/28/content_689887_2.htm/.
- 8) John Costello, "The Strategic Support Force: China's Information Warfare Service," *China Brief*, Vol. XVI, Issue 3, February 8, 2018, p. 18, https://jamestown.org/wp-content/uploads/2016/02/CB_16_3_3.pdf?x87069/.
- 9) U.S. Department of Defense, *Annual Report to Congress Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2018*, May 16, 2018 [hereafter *2018 DOD CMSD*], p. 2, <https://media.defense.gov/2018/Aug/16/2001955282/-1/-1/2018-CHINA-MILITARY-POWER-REPORT.PDF/>.
- 10) *Ibid.*, p. 24.
- 11) Kyle Mizokami, "The Chinese Military is a Paper Dragon," *War is Boring*, April 29, 2014, <https://warisboring.com/the-chinese-military-is-a-paper-dragon/>; Meia Nouwens and Lucie Beraud-Sudreau, "Xi Looks to China's Private Sector as He Pursues a Slimmer, Smarter PLA," *War on the Rocks*, February 23, 2018, <https://warontherocks.com/2018/02/xi-looks-chinas-private-sector-pursues-slimmer-smarter-pla/>.
- 12) Dennis J. Blasko, "Walk, Don't Run: Chinese Military Reforms in 2017," *War on the Rocks*, January 9, 2017, <https://warontherocks.com/2017/01/walk-dont-run-chinese-military-reforms-in-2017/>.
- 13) *2018 DOD CMSD*, p. 8, 25. 防衛省『平成30年度防衛白書』では、レンハイ級を駆逐艦としている。
- 14) *Ibid.*, pp. 28-29.
- 15) *Ibid.*, pp. 29-30.
- 16) "Marines: Chinese Marines Expand," *Strategy Page*, March 10, 2017, <https://www.strategypage.com/htm/htamph/articles/20170310.aspx/>.
- 17) *2018 DOD CMSD*, p. 33.
- 18) *Ibid.*, p. 70.
- 19) "The AG600 Kunlong large amphibious plane in maiden China flight," *BBC News*, December 24, 2017, <https://www.bbc.com/news/world-asia-china-42471045/>.
- 20) *2018 DOD CMSD*, p. 34.
- 21) *Ibid.*, pp. 36-37.
- 22) *Ibid.*, pp. 39-41.
- 23) Ian E. Rinehart, "The Chinese Military: Overview and Issues for Congress," *Congressional Research Service Report*, March 24, 2016, p. 18, <https://fas.org/sgp/crs/row/R44196.pdf/>.
- 24) Kevin L. Pollpeter, Michael S. Chase, Eric Heginbotham, "The Creation of the PLA Strategic Support Force and Its Implications for Chinese Military Space Operations," *RAND Cooperation*, 2017, p. ix, www.rand.org/content/dam/.../RAND_RR2058.pdf/.
- 25) "China Military Strength," *Global Firepower*, 2018, https://www.globalfirepower.com/country-military-strength-detail.asp?country_id=china/.
- 26) Jonathan Marcus, "The 'globalisation' of China's military power," *BBC News*, February 13, 2018, <https://www.bbc.com/news/world-asia-china-43036302/>.
- 27) Mizokami, "The Chinese Military is a Paper Dragon."
- 28) Ryan Pickrell, "The Chinese military has a big and glaring weakness, and it's turning to Russia to fix it during massive war games," *Business Insider*, September 14, 2018, <https://www.businessinsider.com/china-turns-to-russia-to-fix-big-military-weakness-during-war-games-2018-9/>.
- 29) Michael S. Chase, Jeffrey Engstrom, and Tai Ming Cheung, et al., "China's Incomplete Military Transformation: Assessing the Weaknesses of the People's Liberation Army (PLA)," *RAND Corporation*, 2015, p. 71, www.rand.org/content/dam/rand/.../RAND_RR893.pdf/.
- 30) Mark R. Cozad, "PLA Joint Training and Implications for Future Expeditionary Capabilities," *RAND, Testimony presented before the U.S.-China Economic and Security Review Commission*, January 21, 2018, www.rand.org/content/dam/rand/.../RAND_CT451.pdf/.

- 31) Eric Baculinao, "These Chinese military innovations threaten U.S. superiority, experts say," *NBC News*, February 17, 2018, <https://www.nbcnews.com/news/world/these-chinese-military-innovations-threaten-u-s-superiority-experts-say-n848596/>.
- 32) Steve Mollman, "Bigger, faster, stronger: China's ever-evolving military tech," *Quartz*, February 19, 2018, <https://qz.com/1205789/chinas-military-technology/>.
- 33) Minnie Chan, "China's military fires up world first in revolutionary rail gun technology," *South China Morning Post*, February 6, 2018, <https://www.scmp.com/news/china/diplomacy-defence/article/2132263/chinas-military-fires-world-first-revolutionary-rail/>.
- 34) Alex Lockie, "China looks set to deploy a railgun on a destroyer by 2025 - and humiliate the US Navy in doing so," *Business Insider*, June, 28, 2018, <https://www.businessinsider.com/china-railgun-destroyer-2025-humiliating-us-navy-south-china-sea-2018-6/>.
- 35) "First PLAN Type 055 Destroyer 'Nanchang' Started Sea Trials in China," *Naval News*, August 26, 2018, <http://www.navyrecognition.com/index.php/news/defence-news/2018/august-2018-navy-naval-defense-news/6457-first-plan-type-055-destroyer-nanchang-started-sea-trials-in-china.html>.
- 36) Ankit Panda, "As China's Type 001A Carrier Enter Sea Trials, What's Next for the PLAN's Carrier Force," *The Diplomat*, May 14, 2018, <https://thediplomat.com/2018/05/as-chinas-type-001a-carrier-enters-sea-trials-whats-next-for-the-plans-carrier-force/>; Daniel Brown, "China's newest aircraft carrier is actually very outdated - but its next one should worry the US Navy a lot," *Business Insider*, July 18, 2018, <https://www.businessinsider.com/13-photos-of-chinas-first-domestically-built-aircraft-carrier-2018-5/>.
- 37) Ankit Panda, "Introducing the DF-17: China's Newly Tested Ballistic Missile Armed With a Hypersonic Glide Vehicle," *The Diplomat*, December 28, 2017, <https://thediplomat.com/2017/12/introducing-the-df-17-chinas-newly-tested-ballistic-missile-armed-with-a-hypersonic-glide-vehicle/>.
- 38) Meia Nouwens and Lucie Beraud-Sudreau, "Xi Looks to China's Private Sector as He Pursues a Slimmer, Smarter PLA," *War on the Rocks*, February 23, 2018, <https://warontherocks.com/2018/02/xi-looks-chinas-private-sector-pursues-slimmer-smarter-pla/>.
- 39) Greg Austin, "How Good Are China's Cyber Defenses?," *The Diplomat*, July 11, 2018, <https://thediplomat.com/2018/07/how-good-are-chinas-cyber-defenses/>.
- 40) Nouwens and Beraud-Sudreau, "Xi Looks to China's Private Sector as He Pursues a Slimmer, Smarter PLA."
- 41) Dennis J. Blasko, "Walk, Don't Run: Chinese Military Reforms in 2017," *War on the Rocks*, January 9, 2017, <https://warontherocks.com/2017/01/walk-dont-run-chinese-military-reforms-in-2017/>.
- 42) Baculinao, "These Chinese military innovations threaten U.S. superiority, experts say."
- 43) Rinehart, "The Chinese Military: Overview and Issues for Congress," p. 7.
- 44) *Ibid.*, p. 41.
- 45) John Costello, "Chinese Views on the Information 'Center of Gravity' : Space, Cyber and Electronic Warfare," *China Brief*, Vol. XV, Issue. 8, April 16, 2015, https://jamestown.org/wp-content/uploads/2015/04/China_Brief_Vol_15_Issue_8_4.pdf?x87069/.
- 46) Joe McReynolds, "China's Evolving Perspectives on Network Warfare: Lessons from the Science of Military Strategy," *China Brief*, Vol. XV, Issue 8, April 16, 2015, https://jamestown.org/wp-content/uploads/2015/04/China_Brief_Vol_15_Issue_8_2.pdf?x87069/.
- 47) 首相官邸「平成30年度自衛隊記念日観閲式 安倍内閣総理大臣訓示」2018年10月14日, http://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/statement/2018/1014kunji.html.